

第2章 国東市の概況

1 人口・世帯の状況

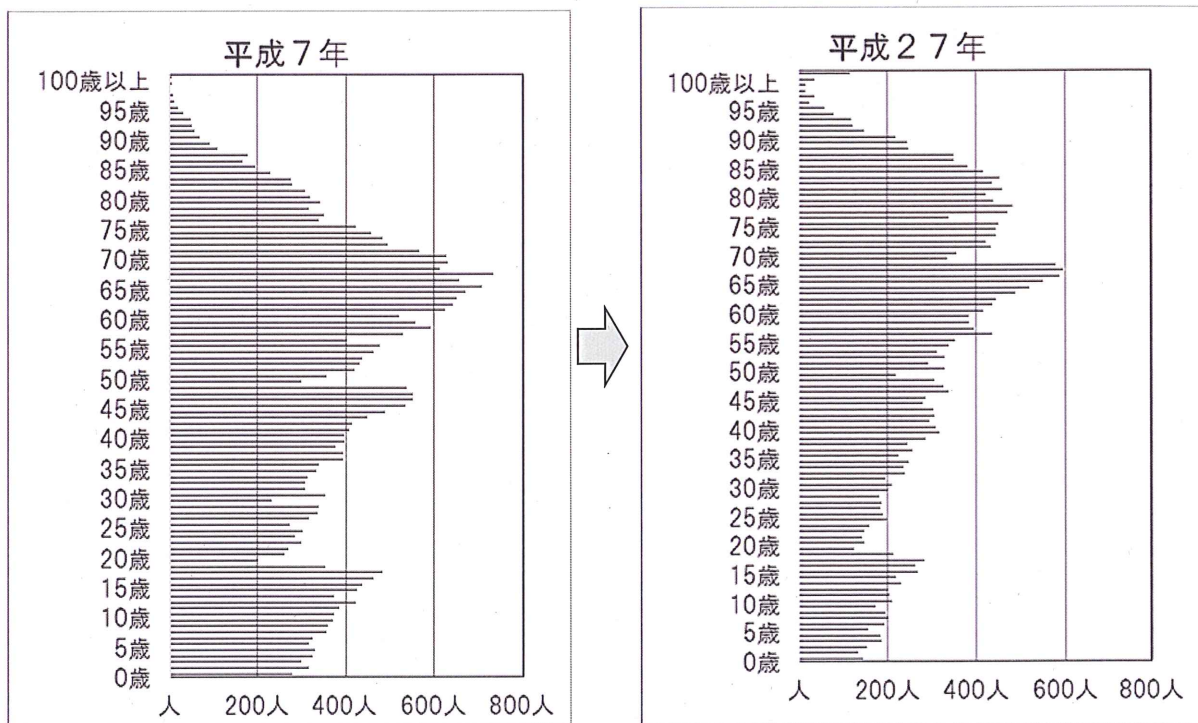
1 人口・世帯の状況

(1) 人口構成の推移

平成7年と平成27年の国東市の人口構成を比較すると、およそ70歳以下の人口が急激に減少した一方、75歳以上の後期高齢者が増加しており、20年の間に人口構成が大きく変化していることがわかります。

また、平成27年時点における66歳から68歳を中心とした年齢層（昭和22年～24年の第一次ベビーブームに生まれた、いわゆる団塊の世代）が突出しており、今後は団塊の世代の高齢化により、65歳以上の高齢者に占める後期高齢者の割合が増加していくこととなります。

<国東市人口構成の推移>



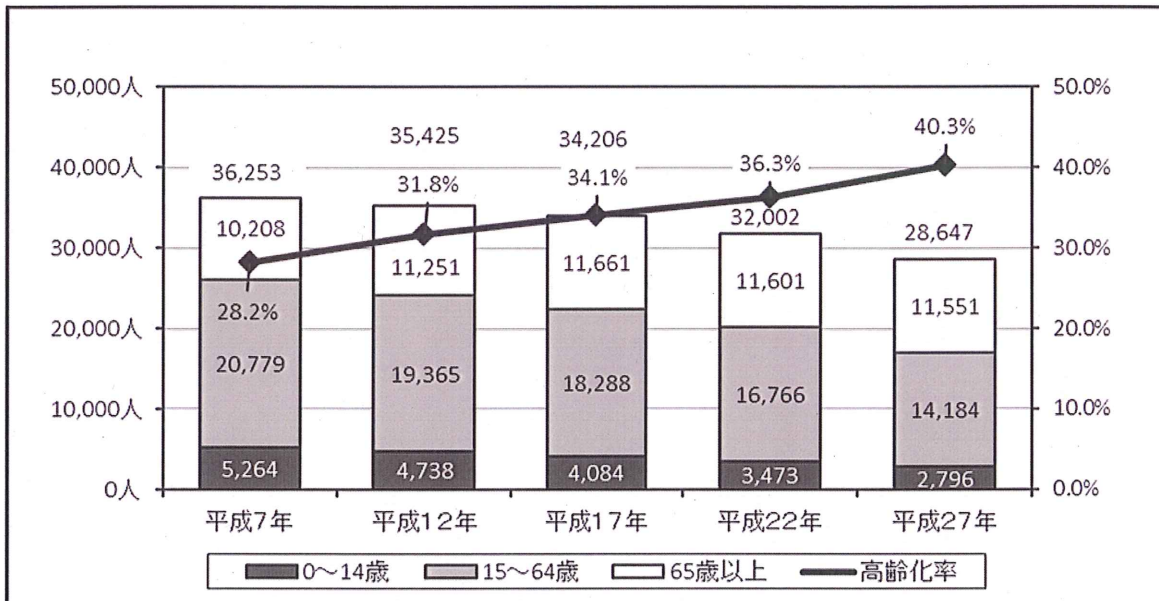
資料：国勢調査

(2) 年齢区分別人口構成の推移

平成7年から平成27年までの20年間について、国東市の総人口の推移をみると、平成7年の36,253人から平成27年の28,647人と7,606人少なくなっており(21.0%減)、減少傾向にあることがわかります。

年齢3区分別の人口をみると、年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15歳~64歳)は減少傾向にあり、それぞれ20年間で2,468人減(46.9%減)、6,595人減(31.7%減)となっています。また、高齢者人口(65歳以上)については、反対に1,343人の増加がみられ、高齢化率も平成7年の28.2%から平成27年の40.3%と20年間で12.1%も伸びています。このように、国東市では、顕著な少子高齢化の状況がみられます。

<年齢3区分別人口と高齢化率の推移>



資料：国勢調査

※総人口は年齢不詳分を含む

(3) 各地区(旧町)の状況

各地区(旧町)の状況を比較すると、高齢化率については、各地区において高い数値を示しています。特に、国見地区では52.3%と非常に高く、最も低い武蔵地区の34.3%と比較すると、18ポイント上回っています。市全体として高い高齢化率を示す中でも、地域差があることがわかります。

また、人口増加率の状況を見ると、5年間で各地区において大幅に減少傾向がみられます。

<各地区(旧町)の状況>

| | 国東市 | 国見地区 | 国東地区 | 武蔵地区 | 安岐地区 |
|--------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 面積 | 317.8 km ² | 72.9 km ² | 112.3 km ² | 41.8 km ² | 90.8 km ² |
| 総人口 | 28,647 人 | 4,344 人 | 10,673 人 | 5,068 人 | 8,562 人 |
| 高齢者人口 | 11,551 人 | 2,273 人 | 4,541 人 | 1,737 人 | 3,000 人 |
| 高齢化率 | 40.3% | 52.3% | 42.5% | 34.3% | 35.0% |
| 世帯数 [※] | 12,112 世帯 | 1,818 世帯 | 4,486 世帯 | 2,125 世帯 | 3,683 世帯 |
| 人口増加率 [※] | △10.5% | △9.9% | △11.3% | △9.5% | △10.3% |

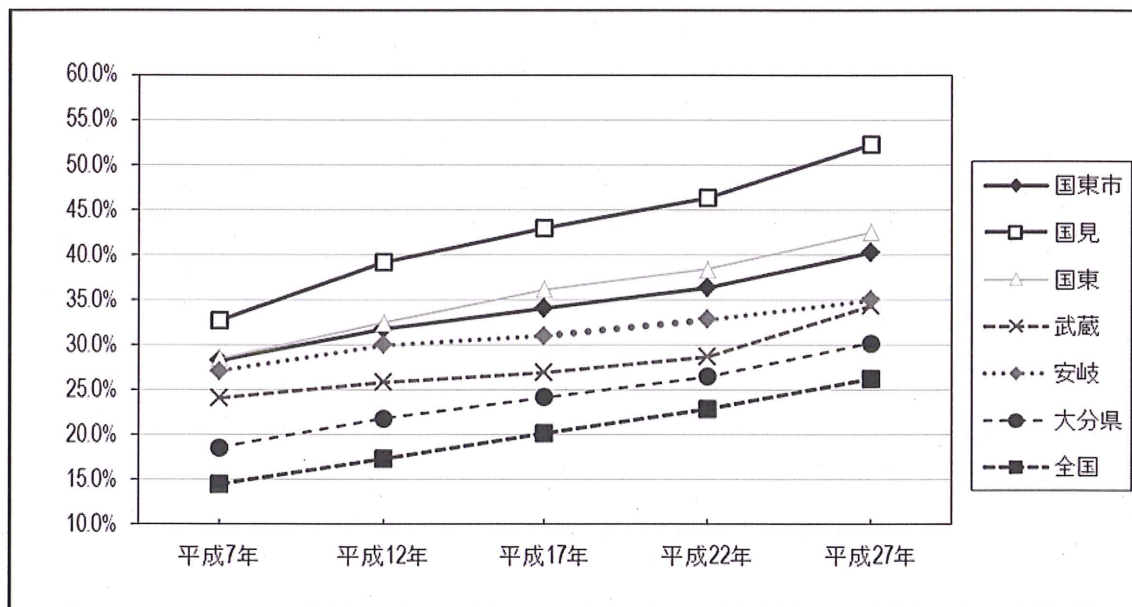
資料：国勢調査

※世帯数は施設等の世帯を含む

※人口増加率は平成22年及び27年国勢調査結果の比較（5年間）

各地区（旧町）の高齢化率の推移について、大分県・全国もあわせて比較すると、4地区すべてにおいて、県・全国平均を上回っている状況がみられます。また、4地区の中での差も広がりつつあり、安岐地区の伸びが比較的ゆるやかであるのに対して、国見地区、国東地区及び武蔵地区の伸びが顕著にみられます。

<各地区(旧町)の高齢化率の推移の比較>



資料：国勢調査

(4) 世帯構成の推移

世帯構成の推移についてみると、一般世帯の総数は平成7年から平成17年にかけて増加していますが、平成22年以降は減少がみられ、平成7年から平成27年の20年間で506世帯減少しています(4.0%減)。

内訳をみると、特に平成7年から平成22年にかけて単独世帯が顕著な増加傾向にあり、平成27年には減少が見られますが、平成7年から平成27年の20年間で1,152世帯増えています。これは高齢者の単独世帯の増加が要因として考えられます。さらに、一般世帯一世帯あたりの人員数は平成7年以降、少人数化が進んでいましたが、平成22年以降は一世帯あたり2.4人と横ばいの状況です。

<世帯構成の推移>

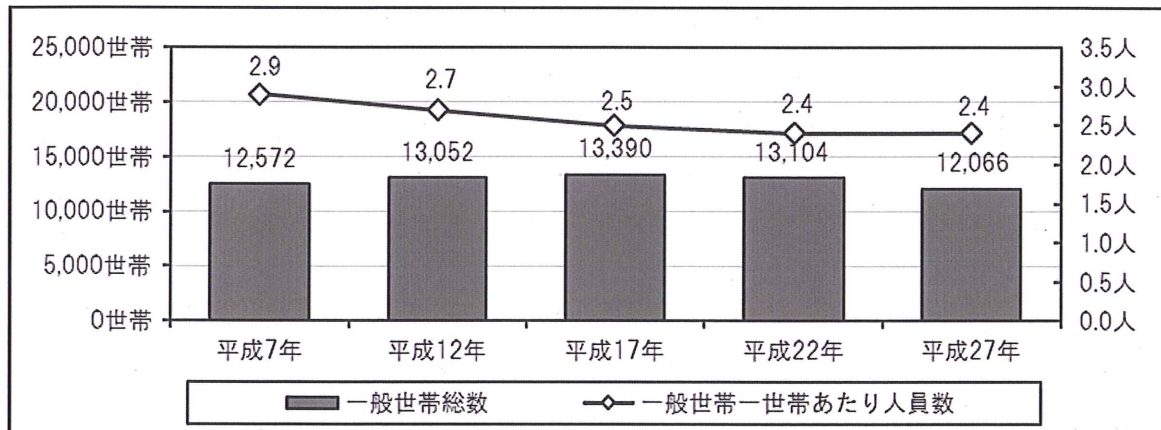
単位：世帯

| | 一般世帯総数 | 親族世帯 | | | | | | | 非親族世帯 | 単独世帯 |
|-------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|----------|--------|-------|-------|
| | | 総数 | 核家族世帯 | | | | その他の親族世帯 | | | |
| | | | 総数 | 夫婦のみ | 夫婦と子ども | 男親と子ども | | 女親と子ども | | |
| 平成7年 | 12,572 | 9,872 | 6,694 | 3,401 | 2,617 | 109 | 567 | 3,178 | 15 | 2,685 |
| 平成12年 | 13,052 | 9,665 | 6,870 | 3,450 | 2,646 | 118 | 656 | 2,795 | 19 | 3,368 |
| 平成17年 | 13,390 | 9,316 | 6,925 | 3,376 | 2,591 | 169 | 789 | 2,391 | 35 | 4,039 |
| 平成22年 | 13,104 | 8,900 | 6,905 | 3,378 | 2,515 | 184 | 828 | 1,995 | 64 | 4,139 |
| 平成27年 | 12,066 | 8,178 | 6,529 | 3,198 | 2,261 | 171 | 899 | 1,649 | 45 | 3,837 |

資料：国勢調査

※平成22年及び27年の一般世帯総数については世帯の家族類型「不詳」を含む

<世帯数及び一世帯あたり人員数の推移>



資料：国勢調査

また、高齢者世帯の推移をみると、65歳以上の高齢者のいる世帯については、平成7年の6,966世帯から平成27年の7,218世帯と20年間で252世帯増加しており(3.6%増)、全体の60%近くを占めています。

内訳をみると、特にひとり暮らし高齢者世帯と高齢者夫婦世帯の増加が顕著で、ともに20年間で約1.4倍、約1.2倍となっています。

<高齢者世帯の推移>

単位：世帯、%

| | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般世帯総数 | 12,572 | 13,052 | 13,390 | 13,104 | 12,066 |
| 65歳以上の高齢者のいる世帯 | 6,966 | 7,345 | 7,424 | 7,304 | 7,218 |
| 構成比 | 55.4 | 56.3 | 55.4 | 55.7 | 59.8 |
| ひとり暮らし高齢者世帯 | 1,379 | 1,629 | 1,808 | 1,874 | 1,971 |
| 構成比 | 19.8 | 22.2 | 24.4 | 25.7 | 27.3 |
| 高齢者夫婦世帯※ | 1,888 | 2,186 | 2,284 | 2,316 | 2,286 |
| 構成比 | 27.1 | 29.8 | 30.8 | 31.7 | 31.7 |
| その他の世帯 | 3,699 | 3,530 | 3,332 | 3,114 | 2,961 |
| 構成比 | 53.1 | 48.1 | 44.9 | 42.6 | 41.0 |

資料：国勢調査

※高齢者夫婦世帯：夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯

以上のように、国東市においては著しい高齢化の進展がみられます。日本社会保障・人口問題研究所が行った最新の人口推計によると、平成37年には人口は25,259人に減少し、高齢化率は43.7%に上昇するとしており、今後さらに深刻な人口減少及び高齢化の時代を迎えることが想定されます。

また、高齢者支援課の推計によると、平成37年には高齢者夫婦のみ世帯数は2,158世帯に減少する一方、ひとり暮らし高齢者世帯数は2,096世帯に増加するとしています。